



参 加 者 の 声

- ・40代（女性）

ゲームやテレビがよくないことはわかっていてもなかなか止めさせることができませんでした。今日の話でわが子にいろいろな症状が既に出てきてることが分かりました。帰ったら、子どもたちに話して努力していきたいと思います。

- ・20代（男性）

私もテレビ、テレビゲームとともに育った世代です。学生時代を振り返ってみると「ゲーム中毒」であったのではないかと思います。自分が親になる前に今日の話を聞けたことを大変幸運だと感じました。自分が関わっていく子どもたち、そしてまだ見ぬ自分の子どもとの接し方に今日の話を参考にさせていただきます。

- ・30代（女性）

わが家の子育てのあり方を夫婦で考えてみよう
と思いました。共働き、核家族で幼児2人の家族
で忙しいのですが、もう少し子どもと向き合ってい
こうと思います。

テレビの 見過ぎに要注意！

子どもたちに心のワクチン
「メディア・ワクチン」を！

が開かれました。講師は仙台医療センター小児科医長（元鳥取大学医学部小児科助教授）の田澤雄作先生。約150人が参加し、熱心に話に聞き入りました。

体の不調で不登校になつた子どもを診察したところ、原因はテレビゲームによる慢性疲労であつたこと、1週間テレビ、ゲームを止めたら元気になり登校できたことなど、過剰なメディアとの接触が子どもに与える弊害を写真を交えて話されました。

なお、幼稚園教育課では、保育所参観日や就学時検診などを活用し、子どもの成長段階に応じた子育て、家庭教育の学習機会として「子育て講座」を開催しています。

時期は、広報紙や防災無線などでお知らせしますのでご参加ください。

高麗保育所では地域の人と
れあおうと、今年度から、公
館サークルや、近くの介護施
設と交流活動を始めました。

7月5日(水)は、公民館サ
ークル「お茶をたしなむ会」(根
勝江代表)のみなさんが保
育所を訪れ、園児にお茶をふる
いました。初めて味わう抹茶
はろ苦さに驚く園児もいまし
が、全部飲み終わると「泡が
かつたけど、おいしかった。

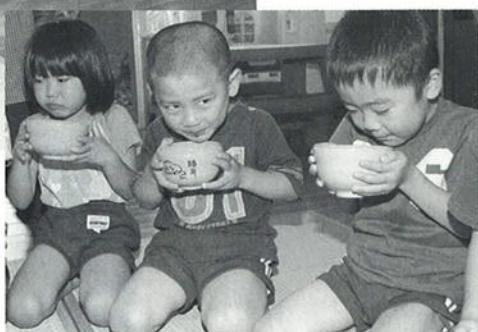
メディアとの接触で子どもたちに起こる影響を学ぼうと、7

子どもの目に隈くまがある、笑顔が少ない、両手で体を支える、

初めての抹茶の味は？



「まずは作法より、楽しんで飲むこと」と話す山根勝江さん



少し薄めのお茶ですが、やはり苦かったよう